



いずみ野

令和元年7月19日
横浜市立いずみ野小学校

【教育論シリーズその6】

体験活動を支える家族愛

校長 松藤 朋治

「うちの弁当、とってもうまいよ。」

その子は笑顔で私に語りかけながら、鶏のから揚げを頬張りました。見ている私もうれしくなり、心がほっこりするのを感じました。これは、7月11～12日の6年生日光修学旅行の1日目、湯の湖の湖畔で子供たちと一緒に弁当を食べたときの何気ないワンシーンです。

また、2日目にこんなシーンも見かけました。

「あああっ、どうしよう。迷っちゃうな。」

どうやら、その子の家は祖父母も含めると家族が多く、おみやげの数や内容と限られた予算（上限3,000円）との間で板挟みになっているようでした。しばらく考えた末、家族の誰もが満足いくような妙案がひらめいたらしく、すっきりした笑顔でレジに向かいました。

当然のことながら、一生に一度きりの小学校修学旅行。はじけたバスレク、自然を満喫したハイキング、仲間との語らい、世界遺産を見学するときの真剣な眼差し、・・・どのシーンもとても素敵でした。自分の眼で見て心で感じ一緒に体を動かした体験は、子供たちにとって生涯忘れ得ぬ思い出となって心に刻み込まれたことでしょう。私は、子供たちの笑顔を見るにつけ、その背景にあるご家族の深い愛情を感じました。弁当の中やおみやげの中に、温かいぬくもりが見えました。きっと、帰宅後のお子さんの“武勇伝”に大きくうなずきながら傾聴されたことでしょう。



▲ 楽しいおみやげ選び。

さて、いよいよ明日から夏休みです。私の思い出話で恐縮ですが、今から〇〇年前の夏、私が小学生だった時のことです。私が通っていた小学校は創立したばかりだったので、まだ学校にプールがありませんでした。近くにスイミングスクールなどもなく、私にとって“水泳”なるものは無縁でした。そんな時、母が隣の学校のプール開放に連れて行ってくれました。うれしかったです。我が家は共働きだったのですが、高度成長期で仕事を休みにくい時代だったはず。また、泳げない私の手を引いて教えてくれたように記憶しています。今更ながら、感謝です。

38日間の長い夏休み、ぜひ、お子さんにとって将来の道しるべとなるような、素敵な体験の場を設けていただければ幸いです。・・・愛情たっぷりに。

夏休み明けの子供たちの笑顔を、楽しみにしています。



▲ 湖畔で、おいしい弁当タイム。

子供にとって体験活動が大切であることについては昨年度の学校だより夏休み号（平成30年7月20日発行：教育論シリーズその2「体験活動が人をつくる」）にて述べさせていただきましたが、それを支えているもののなかで最も大きいものは家族の愛情だということを確信しました。